

どくしょキャンプ

■ 事業のねらい

道立青少年教育施設において、関係機関と連携し、本に親しむ活動を通して、子どもたちの読書への興味関心を引き出すとともに、読書活動を促進し、読書習慣を定着させる。



- 実施日 平成24年10月6日(土)～10月8日(月) 2泊3日
- 参加対象 オホーツク管内の小学4年生～6年生 20名
- 参加実績 参加者：5名
小4＝3名、小5＝0名 小6＝2名
男子＝2名、女子＝3名
- 備考 運営協力者：大学生ボランティア2名
活動場所：常呂少年自然の家、北見市立常呂図書館、サロマ湖畔
協力：北見市立常呂図書館
常呂子どもの本の会「どんぐり」
常呂高校ボランティア局「きらきらぼし」

1 事業実施の背景



インターネットや携帯、ゲームの普及など、子どもたちを取り巻く環境の変化により、読書・活字離れが叫ばれて久しい。読書は豊かな心の醸成には欠かせないものであり、また全国学力・学習状況調査においても、学力と読書習慣の関連が報告されている。今日、基本的な生活習慣の確立とともに読書に親しむことや、読書習慣の定着が子どもたちにとって大きな課題となっている。北海道教育委員会では「北海道子どもの読書活動推進計画」を策定し、「朝読・家読運動」などをおして子どもたちの読書環境作りに取り組んでいる。

本事業は、少年自然の家の恵まれた自然環境を生かし、読み聞かせやポップ作り、サロマ湖畔で読書など、非日常的な場所での読書活動を通して、子どもたちの主体性や自主性を育みつつ、自発的な読書活動の啓発、日常の読書習慣の定着と意識付けを目的としたものである。

2 プログラムデザイン

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1日目 10/6 (土)	受付 13:00～13:30							受付	開会式	図書館に行こう 常呂図書館	夕食 野外炊飯 カレーと野焼きパン	読書タイム 読み聞かせ①		入浴 自由	就寝	
2日目 10/7 (日)	起床	朝食	活動準備	サロマ湖のほとりで読書	いかだ体験	昼食	読み聞かせ②	ポップ作り 私の好きな本を紹介しよう。	夕日を見ながら読書	活動準備	夕食・自由	遊びリンピックに挑戦!	読書	入浴 自由	就寝	
3日目 10/8 (月)	起床	朝食	活動準備	ポップ発表 みんなで読み聞かせ会	閉会式	解散 11:30										

■ アクティビティについて



■ 意図

- 自然の家を活用し、野外活動（いかだ体験、野外炊飯、野焼きパン）や、湖畔で夕日を眺めながら、のんびり本を読んだりすることにより、子どもたちの交流を深め、読書習慣の定着を図るきっかけづくりとする。
- 図書館に出かけ、期間中に読む本を自ら借り、その中から自分の好きな本やお勧めの本を選んでポップを作って紹介することを通して、自他共に読書の楽しさに気づかせる。
- 読み聞かせを多く取り入れ、聞くだけでなく、読み聞かせの方法を学び、子どもたちにも実際に行わせ、読み聞かせをすることに興味をもたせる。

■ 留意事項

- 地域の図書館司書や読み聞かせ会、高校生ボランティアと連携を図り、読み聞かせの時間を充実させる。
- 屋内外での子どもたちの読書の時間を十分に確保し、ゆったりと読書に集中できるようにする。

3 活動の様子



■ 当日の様子

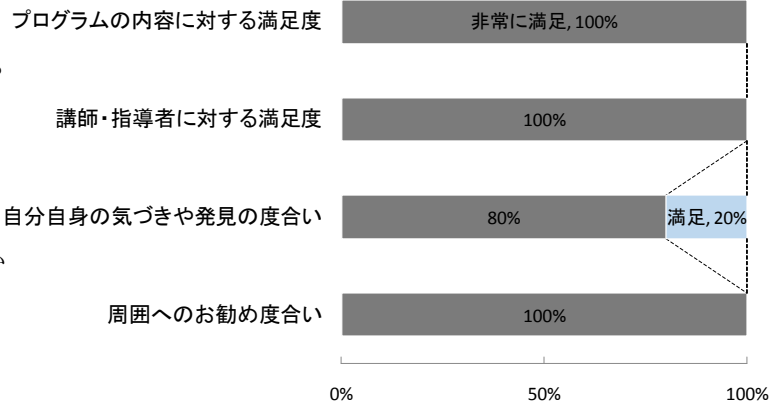
1日目は、北見市立常呂図書館に移動し、司書の方から本の展示や配置、ポップについての説明を受けた。普段見られない書庫も見学した。キャンプ中に読む本を借りた後、司書の方に読み聞かせをしていただき、本の選び方などのアドバイスを受けた。自然の家に戻り、全員で野外炊飯の夕食作りを行い、カレーと野焼きパンに舌鼓を打った。夕食後は2回目の読み聞かせを、地域の読み聞かせ会からしていただいた。

2日目は、サロマ湖畔で読書を行った後、みんなでいかに乗ってサロマ湖を満喫した。午後からは地域の常呂高校ボランティアから紙芝居の読み聞かせをしていただいた。読み聞かせの方法も教えていただき、子どもたちは読み聞かせに挑戦した。その後、自分の選んだ本のポップ作りに取り組み、思い思いのポップを完成した。ハンガーやダンボールを使った本立ても作り、ポップと一緒に飾った。夕方からは再度サロマ湖畔に出て、夕日を見ながら読書を行った。

3日目は、作成したポップの発表と練習した読み聞かせを、グループや個人で行った。上手に発表し、互いに聴きあい、拍手でたたえあった。

■ 参加者の声（アンケートから抜粋）

- ・本を3冊読みきった。また来年もどくしょキャンプがあったら来たいと思います。(小4)
- ・みんなで夕日を見たことが、一番心に残った。(小4)
- ・カレー、野焼きパン作りをがんばった。来年来られたら、また来たい。(小4)
- ・いかに体験と「夕日でどくしょ」が楽しかった。(小6)
- ・読み聞かせができるか心配だったけど、うまくできてよかった。(小6)



4 事業評価



■ 参加者の変容【I K R調査結果】

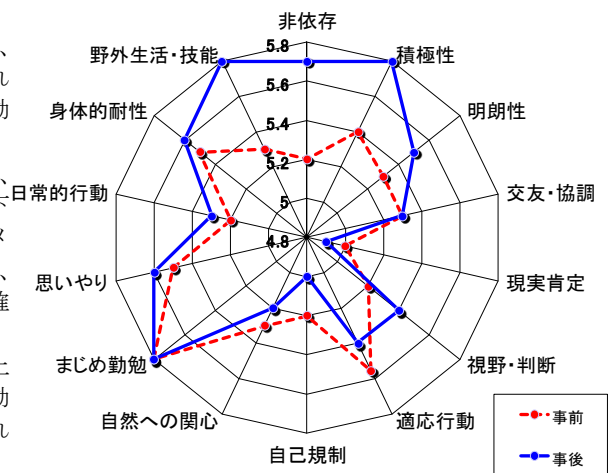
全体平均で0.1ptの向上がみられた。「非依存」「野外生活・技能」が最大の0.5ptの向上を示し、「積極性」が0.4pt、「明朗性」「視野・判断」が0.2pt向上した。

■ 結果の分析・考察

「積極性」、「野外生活・技能」、「非依存」で大きく向上が見られた。いかに体験や野外炊飯の活動が作用したためと考えられる。

一方、「自己規制」、「適応行動」、「自然への関心」のポイントを下げる結果となったのは、読書をメインの活動に据え、自分で自由に、のんびりと読書を楽しむ時間を確保したためと考えられる。

「明朗性」「視野・判断」の向上は、キャンプ中の集団生活や活動が充実していたためと考えられる。



5 まとめ



■ 成果

- 自然環境を活かし、サロマ湖畔で、のんびりと読書することができ、非日常の中で読書に浸ることができた。また、いかに体験や野外炊飯を通して、友だちと仲良く協力するなど積極性を身につけることができた。
- 読むという活動だけでなく、読み聞かせや紙芝居体験、ポップ作りを通して、本について表現すること、発表することが出来た。保護者アンケートに、「家で妹に読み聞かせをしてあげるようになった。」とあり、今後につながる読書活動の推進に寄与できた。

■ 課題・今後の方向性

- 参加者が少なかったため、周知方法の見直し、日程の調整を行い、参加者を集めるための工夫が必要である。
- I K Rの結果から、数値が減少した項目も見られるため、読書活動をメインに据えながらも、自然の家の特色を生かしたプログラムデザインをしていく必要がある。